

宇治市街遺跡の初期須恵器

古墳時代の考古学を研究していくうえでの、大きな関心事の1つは、「須恵器の登場はいつなのか」という問題です。これにヒントを与えてくれるのが、宇治市街遺跡の発掘調査成果です。

宇治市街遺跡の古墳時代流路からは、大量の初期須恵器が出土しました。蓋や高坏からみると、この初期須恵器は日本に須恵器生産が伝わった段階のものが主体となっています。あわせて、この遺構から出土した羽子板状のヒノキ材を年輪年代測定すると、389年伐採という結果が出ました。このことから、日本における須恵器生産の開始が4世紀の終わりに位置づけられる可能性が出てきました。

ただし、ヒノキ材が伐採されてすぐ流路に埋まったのかどうか定かではない点などには注意が必要です。